



## おくりもの

おたん<sup>じょうび</sup>生日や母の日、父の日、クリスマス、バレンタインなどイベントにあ<sup>あ</sup>合わせておくりもの(プレゼント)をしたり、もらったりするとドキドキワクワクしますね。おくりものには、おもちゃやケーキばかりではなく、歌<sup>うた</sup>やことばのおくりものもあります。

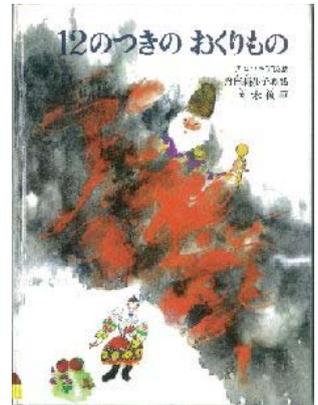
いろいろなかたちの「おくりもの」について考<sup>かんが</sup>えてみませんか？



### 『12のつきのおくりもの』

スロバキア民話 内田莉莎子/再話 丸木俊/画 (福音館書店)

ママ母<sup>はは</sup>とそのむすめホレーナと三人<sup>さんにん</sup>でくらしていたマルーシカは、よくはたらく美<sup>うつく</sup>しいむすめでした。ママ母<sup>はは</sup>たちはそんなマルーシカがにくらしく、ある寒<sup>さむ</sup>い冬<sup>ふゆ</sup>の日に、スミレをとってこいと森<sup>もり</sup>へおいやっ<sup>ゆき</sup>てしまいます。雪<sup>ゆき</sup>の中<sup>なか</sup>をさまよううち、森<sup>もり</sup>のおく<sup>び</sup>でたき火<sup>び</sup>をかこんでいる十二<sup>じゅうに</sup>の月<sup>つき</sup>のせい<sup>あ</sup>にたち<sup>かれ</sup>に出<sup>い</sup>会<sup>たい</sup>います。彼<sup>あ</sup>ら<sup>い</sup>がマルーシカ<sup>な</sup>にあげ<sup>な</sup>たおくりもの<sup>な</sup>とは一体何<sup>な</sup>でしょうか。



イップとヤネケ  
シンタクラスが  
やってくる！

アニー・M・G・シュミット/作  
フィーブ・ヴェステンドルフ/絵  
西村由美/訳

(岩波書店)



こねこのチョコレート

B・K・ウィルソン/作  
小林いづみ/訳  
大社玲子/絵

(こぐま社)



**やっかいなおくりもの  
(ごきげんなすてご2)**  
いう ひろし/さく  
(徳間書店)



五か月前、あたしに弟が生まれました。弟なんて、おさるみたい。それなのに、みんなが「かわいい弟がいて幸せね」って言います。幸せはほかの人にも分けてあげなきゃ。そこで、あたしは弟をだれかにプレゼントしようと出かけました。このおくりものをもって幸せになるのは、だれかな？



**世界でいちばん  
やかましい音**  
ベンジャミン・エルキン/作  
松岡 享子/訳  
太田 大八/絵  
(こぐま社)

むかしむかし、ガヤガヤの都は世界でいちばんやかましいところでした。ある年、この国の王子がたんじょう日のおくりものにえらんだのは、世界で一番やかましい音でした。そこで世界中の人たちが、このおくりものにきょうりやくすることになりました。さて王子をよろこばせることはできたのでしょうか。



**里山のおくりもの**  
今森 光彦/写真・文  
(世界文化社)



**贈ってうれしい  
チョコレートスイーツ**  
宮沢 うらら/著  
(汐文社)



ラッピングやカード作りの本もあるよ！



**台所のマリアさま**  
ルーマー・ゴッテン/作  
猪熊 葉子/訳  
C. パーカー/絵  
(評論社)

マルタは生まれた国をとおくはなれ、グレゴリー少年の家でお手つだいをしています。マルタのこきょうでは、台所にマリアさまの絵をかざったとくべつな場所がありました。それがない台所はからっぽな気がします。悲しむマルタのために、グレゴリーはマリアさまの絵を自分で作ってあげようと決めました。



**賢者のおくりもの**  
オー・ヘンリー/文  
リスベート・ツヴェルガー/画  
矢川 澄子/訳  
(富山房)

まずしいふうふのデラとジムは、美しいかみの毛と金時計がじまんでした。クリスマスの前日、デラは自分の美しいかみの毛を売って、ジムの金時計にふさわしくさりを買いました。ジムもデラにプレゼントを用意していました。二人はどんなクリスマスをむかえたのでしょうか？